

遺伝子組み換え作物をめぐる社会経済的問題

北海道大学農学研究科 久野秀二

1. はじめに 問題の所在

2. 遺伝子組み換え作物の商品化動向

- (1)すでに商品化されている作物品種
- (2)開発段階にある作物品種
- (3)開発企業のプロフィール

3. 遺伝子組み換え作物開発の推進論拠

- (1)病虫害や環境ストレスに抵抗性をもつ新品種の作出によって、世界人口を養うための食糧増産に寄与する
- (2)化学資材への依存を減らして環境保全型農業の実現に貢献する
- (3)投下労働や投入資材にかかる経費を削減する = 農業者利益
- (4)高品質・高機能の食品をつくり出す = 消費者利益

4. 農業者利益論の問題点

- (1)開発企業が主張する農業者利益の具体例
- (2)米国農務省 (USDA) の見解
- (3)主要生産州における GM 品種と従来品種の収量比較
- (4)アイオワ州における GM 品種と従来品種の栽培コスト比較
- (5)農業者利益を評価するための視点

5. 食料増産 = 飢餓克服論の問題点

- (1)開発企業が主張する農業バイオテク不可欠論
- (2)技術至上主義的解決策への批判
- (3)CGIAR およびロックフェラー財団の見解
- (4)途上国農業と飢餓問題を考えるための視点

6. 費用便益評価と社会学的・政治経済学的評価

- (1)Reiss&Straughan の見解について 費用便益分析の必要
- (2)Sociology of Agriculture が提示した視点について 政治経済学的視点の必要
- (3)Agricultural Ethics が提示した視点について 公平性・持続性・自律性

7. おわりに オルタナティブのあり方について